

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
青梅市教育目標

学校の教育目標

- ・努力（粘り強さ、やり抜く力）
- ・創造（主体的な学び、意欲）
- ・協調（自他を大切に、協力）

めざす生徒像（生きる力）

- ・知（確かな学力）
- ・徳（豊かな人間性）
- ・体（健やかな心と体）

**[青梅市学力向上5カ年計画]
育成すべき資質、能力**

- ・学びに向かう力、人間性等（継続）
- ・知識、技能（定着）
- ・思考力、判断力、表現力等（追究）

めざす学校像

- ・確かな学力の定着と向上に努める学校
- ・豊かな心の育成に努める学校
- ・夢や希望をもち、よりよい社会を創る意欲を高める学校
- ・安全できれいな学校
- ・生徒、家庭、地域から信頼される学校

「確かな学力の定着」とは

- ・基礎的、基本的な学力の定着を図ること。
 - ・発展的学習を通じた深い学びにつなげること。
- を個に応じた指導を通して、自分の力となるよう身に付けさせること。

本校の現状

【令和6年度全国学力学習状況調査の結果】

- 東京都の平均を約2～3ポイント（前年度は5～8ポイント）下回ったものの全国平均は約1ポイント上回ることができた。どの教科も選択肢問題の無回答が低い一方で、短答式と記述式問題の無答率は都平均より高く、記述式では国語が約5ポイント、数学が約2ポイント低い結果となった。しかし、数学の短答式は約1ポイント下回った。
- 国語、数学、理科について、「勉強は好きですか」の回答は国語58.7ポイント、数学58.7ポイント、理科63ポイントと国語、数学は昨年を上回った（理科は実施なし）。「授業の内容はよくわかりますか」の回答は国語78.2ポイント、数学93.5ポイント、理科が63.0ポイントで国語と理科は都や全国平均を下回ったものの、数学は約17ポイント上回った。
- 自己肯定感について「自分にはよいところがあると思いますか。」の回答では肯定的回答が約80.5ポイントで、昨年より約16ポイント上回ったが東京都よりは約3ポイント低かった。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答は東京都や全国平均と遜色ないが、最上位の回答は23.9ポイントと都や全国より約20ポイント下回った。
- 学校運営協議会では総合的な学習で調べたことについて発表する力に課題があるのではないかとの意見が上がった。調査における「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の設問に対する最上位の回答は23.9で都や国の平均より10ポイント以上下回った。

本校の課題

- ・授業態度は良好で授業規律も保たれている。また授業に対する肯定的な意見も高い。一方主体的に学ぼうとする意識や粘り強くあきらめずに考えることに課題があり、教師が生徒の実態を定期的に把握し、主体的に学ぶ機会や個の課題に応じて適切に支援しながら最後まで取り組ませ工夫をするなど、定期的な授業改善が重要である。
- ・基礎、基本の学力定着を図り「確かな学力」を定着させることで学習に対するやる気を高め、自己肯定感や自尊意識を育成する。そのため生徒の取り組みに対して肯定的な言葉がけを増やし、課題に対してはわかるまで丁寧に指導する。
- ・自己で設定した課題について教科で学んだ知識を活用して、「書く」「話す」「発信する」など表現する力の育成を図る。

本校の学力向上に向けた取り組み

学びに向かう力、人間性等 （「継続」のために）

- ・基礎的、基本的な学力の定着に向け、粘り強く学習に取り組む態度の育成を図る。
- ・「特別の教科道徳」をはじめ、すべての教育活動を通して生徒の自己肯定感や自尊感情の育成を図る。
- ・教師やSC面談を通して生徒一人一人の課題を捉え、その改善に向けた手立てを一緒に考える。
- ・保護者会や面談を活用して学校と家庭の連携を図る。

知識、技能 （「定着」のために）

- ・一単位の授業で目当てと振り返りを行うことで個々の生徒の課題を明確にする
- ・習熟度での学習を通して個に応じた指導の充実を図る。
- ・教科横断的学習についての意識を高め、生徒が自分の知識を活用する力の伸長を図るとともに、「書く」「話す」「発信する」など表現力の育成を図る。
- ・放課後学習教室(ステップアップクラス)を生かして生徒一人一人の課題に応じた指導助言をすることで学習意欲の向上を図る。

思考力、判断力、表現力等 （「追究」のために）

- ・校長による授業観察(年3回)、各種学力調査、学校関係者評価、生徒、保護者へのアンケート(授業評価)を行う。
- ・教師が生徒の課題を把握し、その改善に向けて授業改善に取り組む。
- ・GIGAスクール構想の下、生徒の興味、関心を高める授業や、既習知識を活用する授業を設け、個に応じた学習や主体的な学びにつなげていく。
- ・表現力の向上を目指し、各教科等で発表する場面に授業に取り入れる。

中間評価(ここまでの取り組みと今後の課題)

○学びに向かう力、人間性等（「やる気」の育成）

- ・ICT機器の活用をはじめ、個に応じた学習につながるよう、一単位時間の中での授業改善を行うことで、基礎的、基本的な学力の定着や粘り強く学習に取り組む態度の育成を図っている。
- ・夏季休業開始後、全校三者面談を行い、学校や家庭での生徒情報を共有することで、夏季休業中の課題改善に向けた過ごし方（学習、生活）を確認した。

○知識、技能（「根気」の育成）

- ・一単位時間での学習目標を示すことで、生徒は自己の課題を明確にしながら取り組むことができた。また粘り強く学習に取り組む姿勢を身につけられるよう、授業改善に取り組んだ。
- ・家庭学習の定着については依然課題となっている。今後も保護者と連携して進めていきたい。

○思考力、判断力、表現力等（「考える」の育成）

- ・「全国学力学習状況調査」の結果としては正答率（都平均）においては国語が約5ポイント（前年度は2ポイント）、数学が約14ポイント（前年度は3ポイント）下回った。本校の課題となっている短答式、記述式問題の正答率や無答率は依然大きな課題となった。

今年度の振り返りと次年度への課題

○学びに向かう力、人間性等（「やる気」の育成）

- ・教員が「粘り強く学習する態度の育成」に向けて授業改善を行ったことで、生徒が主体的に学習する意欲を育むことにつながることができた。今後も教員は個別最適な学びを通して、基礎的・基本的な内容の定着、表現力の向上などの課題改善に向けて授業改善に取り組みスキルアップを図っていく。

○知識、技能（「根気」の育成）

- ・生徒が粘り強く学習に取り組む姿勢を身につけられるよう授業改善を図っている。
- ・家庭学習の充実に向けた保護者との連携については課題が残った。
- ・今後も既習事項の定着と活用に向けた授業改善、家庭学習の定着を進めていく。

○思考力、判断力、表現力等（「考える」の育成）

- ・各教科で身につけた力を生かし、総合的な学習等において他学年の生徒に発表する機会を全学年が設けたことで、表現力の向上につながることができた。またICT機器を活用する機会が増えたことで、自分で調べままとめる力が向上した。
- ・「全国学力学習状況調査」における短答式、記述式問題の解答率を向上させるため、基礎的、基本的な学力の定着や活用する力、表現力の向上を図るための授業改善を進める。

※ 今後も「個別最適化された学び」を充実させることで、一人一人の生徒の興味、関心を高め、生徒の確かな学力の伸長につなげていきたい。